

1835

支那ニ對スル政務指導ノ現況

第一政務指導機關

支那ニ對スル政務指導即チ政治、經濟、文化等ノ指導乃至開發ハ帝國ノ一般國策ト重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ從來各軍ニ對シ軍部大臣之ヲ區處シ現地ニ於テハ主トシテ軍之ニ當リ統帥及作戰ト協調ヲ保チツ、アリシガ今彼對支院設置セラル、ニ伴ヒ治安維持ニ關スルモノ、外總テノ政務指導ヲ對支院及其現地機關ニ移讓スルコト、ナレリ

第二政治ニ關スル事項

一、蒙疆方面

我軍ノ進出ニ伴ヒ張家口ニ成立シタル察南自治政府（九月四日）大同ニ成立シタル晋北自治政府（十月十五日）及綏遠（厚和ト改稱ス

1835

ニ結束ヲ固クセル蒙古聯盟自治政府ハ昨年十一月二十二日蒙疆聯合委員會ヲ組織シ關東軍次ヲ駐蒙軍指導ノ下ニ政務ニ當リ蒙疆銀行ヲ直チニ設立シテ金融ノ統一ヲ圖ル等々實績舉リ治安維持最モ良好ナリ

蒙疆聯合委員會ハ三政府ノ有スル權限ノ一部ヲ委讓セラレ重要政務ヲ處理シアルモノニシテ其組織ハ當初總務、產業、金融、交通ノ四委員會ナリシカ本年七月十九日之ヲ強化擴大シテ總務、產業、財政、交通、民生、保安ノ六部制ニ改メタリ

二、北支方面

北支ニ於テハ舉變勃發以來我軍ノ占據セル各地ニ治安維持會成立シテ一時的政務處理ニ當リ居タルカ戰局進展ニ伴ヒ新政權樹立ノ氣運醸成シ昨年十二月七日中華民國臨時政府成立シ同月十四日北京ニ於テ五色旗ヲ稱ゲ正式典禮ヲ行フニ至レリ
其組織ハ議政、行政、司法ノ三委員會及行政委員會ニ屬スル治吏、

北支方面

支那

0 262

0 261

0247

1835

其組織ハ北支ニ於ケル臨時政府ニ準シ三院七部制トシ又其政綱ハ臨時政府ノモノト同ジ

0 264

2

1835

教育、實業、司法、賑濟ノ五部ヲ官幹トシアリシモ本年八月内政部及財政部ヲ新設シ賑濟部ヲ他部ニ吸收セシメタリ。其施政方針ハ分治合作ニヨル全國統一ニシテ産業ヲ開發シテ民生ノ向上ヲ圖リ日滿支ノ親善共榮ヲ樞軸トシテ勦共ノ大事業ヲ完成スルニ在リ

現在河北省、山東省、山西省、河南省ノ四公署及北京、天津、青島三特別市ヲ管轄シ着々成果ヲ收メツ、アリ、海關ノ接收中國聯合準備銀行ノ設立等ハ其著シキモノナリ。然レトモ本年春以來治安稍々不良トナリ地方政務ノ進捗意ノ如クナラサルハ遺憾ナリ

三 中支方面

中支那方面ニ於テモ南京陥落後新政權樹立ノ機運醞釀シツツアリシカ本年二月ニ至リ愈々其運動盛トナリ三月二十八日南京ニ於テ中華民國維新政府五色旗ノ下ニ誕生スルニ至レリ

0 263

0248

第三經濟ニ關スル事項

1835

北支及蒙疆方面

北支經濟開發ノ目標ハ日滿經濟ノ綜合的關係ヲ補強シ以テ日滿支提
携共榮實現ノ基礎ヲ確立スルニ在リ

之カ爲支那現地資本及技術ヲ緊密ニ結合セシメテ經濟各部門ヲ開發
整備シ以テ秩序ノ維持、民衆生活ノ安定ヲ圖リ併セテ日滿兩國ニ互

ル我廣義國防生産力ノ擴充ニ資スルモノトス

以上ノ見地ニ基キ北支ニ於ケル經濟開發ヲ促進シ其統合調整ヲ圖ル
爲日本法人タル資本金三億五千萬圓ノ北支那開發株式會社ヲ設立ス

ルコトトシ其法律四月二十八日公布サレ來ル十一月一日ニハ設立サ
ルル豫定ナリ

現在右會社ニ關聯スル事業會社ノ設立サレタルモノ左ノ如シ

(一)蒙疆地方

1835

(イ) 郵政通信關係

蒙疆聯合委員會ニ郵電總局ヲ設置シ郵便、電信、電話及放送事業
ヲ行ハシムルト共ニ電氣通信施設ノ建設維持ニ當ラシムル爲蒙
疆電信電話設備會社ヲ設立セリ

同會社ハ資本金一千萬圓、蒙疆各政權、日本電信電話工事會社、
京綏鐵路局等ノ出資ニ係ル

(ロ) 電氣事業

蒙疆地域内ニ於テ電氣事業ヲ營ム目的ヲ以テ蒙疆電業會社本年
五月二十七日設立ヲ見タリ資本金六百萬圓、蒙疆各政權、蒙疆
銀行、東亞電力興業及興中公司ノ出資ニ係ル

(ハ) 蒙疆銀行

蒙疆地方ノ通貨ヲ統一シ金融ノ安定ヲ計ル爲昨年十二月一日蒙
疆各政權出資ノ下ニ千二百萬圓ノ資本金ヲ以テ設立セラレ既ニ
同地方通貨ノ蒙疆銀行券ニ依ル統一ニ略成功ヲ收メタリ

0 266

0 265

0249

1835

(二) 北支

(イ) 華北電信電話株式會社

華北電信電話株式會社ハ北支那ニ於テ電信電話其他ノ電氣通信事業ヲ營ム目的ヲ以テ資本金三千五百萬圓ヲ以テ設立セラレレコトトナレリ、中華民國臨時政府、北支那開發會社及關係事業會社ノ出資ニ係ル

(ロ) 中國聯合準備銀行

北支那ノ通貨ヲ統一シ其ノ安定ヲ圖ル爲中華民國臨時政府及支那側主要銀行出資ノ下ニ資本金五千萬圓ヲ以テ中國聯合準備銀行設立セラレ本年三月十日開業シ爾來着々トシテ其ノ成果ヲ收メツツアリ

(ハ) 膠澳電氣公司ノ増資

專變前ヨリ青島ニ於テ電氣事業ヲ營ミ居リシ膠澳電氣公司ノ迅速ナル復興ヲ圖ル爲其ノ資本金二百萬圓ヲ八百萬圓ニ増資シタリ

1835

(ニ) 青島埠頭株式會社

青島埠頭及倉庫業務ノ圓滑ナル運行ヲ圖ル爲資本金二百萬圓ヲ以テ青島埠頭株式會社ヲ設立シタリ關係船會社、滿鐵及貿易業者等ノ出資ニ係ル

0250

0 267

0 268

ニ 中支方面

中支那方面ニテハ上海ヲ據點トシ該方面ニ對スル經濟的發展ノ基礎ヲ確立スルヲ目標トシ主トシテ公共的性質ヲ有スル諸事項ノ實權ヲ我方ニ把握スルト共ニ日支共榮ノ精神ニ基キ該區域ニ於ケル經濟ノ復興及建設ヲ助成シ且之ヲ統一的ニ指導スルモノトス之ガ爲日本法人資本金一億圓ノ中支那振興株式會社ヲ設立スルコトトシ其ノ法律四月二十八日公布サレ來ル十一月一日ニハ設立サルル豫定ナリ、現在現地ニ設立サレタルモノ左ノ如シ

(イ) 華中鐵礦株式會社

中支方面ノ鐵礦開發ヲ目的トシ資本金一千萬圓、中支那振興會社日本製鐵其ノ他内地製鐵會社、中日實業 中公司等ノ出資ニ依リ設立ヲ見タリ、其ノ採掘ニ係ル鐵礦石ハ既ニ一部内地ニ採ラレタ

(ロ) 上海内河汽船株式會社

中支那方面内河航運ヲ目的トシ資本金二百萬圓、振興會社、日清汽船其他日文内河用船舶所有者及關係者ノ出資ニ依リ設立ヲ見タ

(ハ) 華中電氣通信株式會社

中支ニ於ケル電氣通信事業ヲ目的トシ資本金一千五百萬圓中華民國維新政府中支那振興會社及關係事業ノ出資ニ依リ設立ヲ見タリ

(ニ) 華中電氣株式會社

中支那ニ於ケル水道及電氣事業ヲ目的トシ資本金二千五百萬圓支那側各水道電氣會社、中支那振興會社等ノ出資ニ依リ設立ヲ見タ

(ホ) 華中蠶糸株式會社

中支那ニ於ケル製糸事業ヲ目的トシ資本金一千萬圓支那側蠶糸工場所有者日本側蠶糸業關係者ノ出資ニ依リ設立ヲ見タリ

三 各地域ニ亘ルモノ

(イ) 在支紡織業ノ復興及擴張

1835

青島上海ニ於ケル破壊サレタル邦人紡ノ復興ヲ圖ル爲青島ニ對シ
テハ九社ニ對シ三十九萬鍾ノ範圍内ニ於テ其ノ復興ヲ認メ上海ニ
對シテハ豐田、日華二社ニ對シ相當程度ノ復興ヲ認ムルコトトシ
各社夫々復興ニ着手セリ

又天津ニ於テハ事變前ヨリノ邦人紡績ノ擴張計畫アリタルニ對シ
二十五萬鍾ノ限度ニ於テ其ノ擴張ヲ認メタリ尙占領地域内支那人
經營紡績ニ對シテハ原則トシテ日支共同經營ニ依ル操業開始ニ努
カシ居レリ

(口) 關稅改正

事變前ノ支那排日關稅ヲ是正スル爲臨時暫定ノ措置トシテ原則ト
シテ一九三一年ノ稅率ニ則リ北支、中支ヲ通ズル關稅ノ改正ヲ行
ヒ六月一日ヨリ實施セリ之ニ依リ從來ノ差別的高關稅ハ概ネ緩和
セララルニ至レリ

0. 271

0252

1835

第四 文化ニ關スル事項

文化ニ關シテハ各方面共日支共通ノ文化ヲ尊重シテ東洋精神文明ヲ復活シ抗日的言論ヲ徹底禁壓シ日支提携ヲ促進スルヲ主眼トシ著ト

實績ヲ擧ケツ、アリ

蒙疆ニ於テハ本年初頭ヨリ主要學校特ニ初等、實業學校ノ授業ヲ復舊シ近ク蒙疆學院ヲ開校スルコト、ナリ居レリ教科書ハ逐次改訂中ナリ尙報道機關トシテ蒙疆新聞社設立サレアリ

北支ニ於テハ教科書ノ應急的改訂ヲ完了シ目下本格的編纂ニ着手シアリ

又新民學院、師範學院、高等警官學校、醫學校、農學院等ハ既ニ開設セラレ、初等教育モ模範小學校ヲ指定獎勵スル等ノ方法ニヨリ逐次整備セラレツ、アリ

中支ニ於テモ初等教育ハ既ニ開始シ又文化關係處理委員會ヲ組織シ

1835

テ文化的施策ニ當リツ、アリ、尙同仁會カ現地ニ進出シテ支那人ノ診療ヲナシ又事變勃發以來歴史の支那文化資料ノ保存ニ努メアルハ周知ノ事實ナリ

0 273

0253

0 272

1835

極秘

大臣

次官

東亞局長

南支政策ニ依ル事變收拾ノ根本方策

松村

0254

0 274

1835

昭和十四年八月七日

大使館参事官 加藤 三郎



外務大臣 有田 八郎 閣下

南支政策ニ依ル事變收拾ノ根本方策

小官

0255

0 275

長ニ命ヲ台湾ニ奉シ在任一年有半、時恰モ今次聖戰ニ際會シ一面事變ノ難局ニ遭遇スルト共ニ他面多年ノ懸案タル本邦南支發展ノ好機ニ寄與スルヲ得タル處此ノ間悉サニ體驗シタル所ヲ以テ今次事變收拾方ニ關シ左記ノ通り卓見具申ス希クハ清鑑ヲ垂レ賜ハムコトヲ

記

一、事變收拾ノ根本方策要項

一、事變收拾ノ根本方策概要

一、附錄 雲南省概況

1

事變收拾ノ根本方策要項

一 今次支那事變ノ目的トスル所ハ八紘一字ノ皇國精神ニ基キ東亞ニ於ケル帝國主義ヲ排シ被搾取民族ヲ解放シ東亞新秩序ヲ建設シ以テ世界ノ平和ニ貢獻セントスルニ在ルハ言フ俟タサル所ニシテ是レ今次事變ヲ聖戰ト言フ亦故ナキニ非サルナリ然ルニ現下世界大勢ヲ通觀スルニ現狀維持國ト現狀打破國トノ對立、共產主義國ト反共產主義國トノ對立、壓迫民族ト被壓迫民族トノ對立及未タ顯著ナル實現ヲ見サルモ將來最モ恐ルヘキ黃白兩民族間ノ對立アリ而モ之等對立ハ相互ニ錯綜シ複雜機微ナル關係ヲ呈シ今ヤ世界ハ一觸即發ノ危機ニアルハ世人ノ夙ニ痛感シ居ル所ナリ然モ我國ハ斯カル世界的革命的重大危局ニ直面シツツ國力ヲ擧ゲテ聖戰ニ從事シ居レリ事變收拾ノ難業タルヤ言フ俟タス一步ヲ誤ラハ皇國ノ興廢推シテ知ルヘキノミ重シク世界ノ大勢ヲ連觀シ之ニ應スル有効適切ナル根本方策ヲ確立シ之カ遂行ニ邁進セサルヘカラス

二 今次事變ノ收拾方ニ關シテハ支那ノ背後ニアル英「ソ」兩國ニ對スル方策ヲ定ムルニ非スムハ根本的解決ノ方法ナキハ贅言ヲ要セサル所ナルカ「ソ」聯ハ支那ニ對シテハ赤化政策ハ之ヲ別トシテ左シテ重大利害ヲ有セス且又同國內外ノ情勢上積極的進出不可能ノ狀況ニアリ之ニ反シ英國ハ支那ニ對シ經濟上莫大ナル利害ヲ有スルノミナラス政治上更ニ重大ナル關係ヲ有ス即チ支那ニ於ケル英國ノ退歩ハ大英帝國瓦解ノ因ヲスルモノアリ從テ英國ノ對日態度ハ相當強硬ナルモノアルヲ覺悟セサルヘカラス故ニ我國トシテハ「ソ」聯ニ對シテハ重キヲ置クヲ要セス專ラ英國ニ對スル確呼タル態度ヲ決定シテ方策ヲ定ムルヲ以テ緊急事ト爲ス

方策ニ二途アリ一ツハ英國ト妥協シテ兎モ角事變ヲ收拾シ退イテ國力ヲ涵養シ北方「ソ」聯ニ備ヘムトスルモノナリ他ハ萬難ヲ排シ支那ニ於ケル英國勢力ヲ驅逐シテ聖戰ノ目的ヲ貫徹セムトスルモノナリ

第一ノ方策ハ安易ノ策ナルモ遂ニ聖戰ノ目的ヲ失ヒ結局國內ノ動亂ヲ見ルカ或ハ徒ラニ「ソ」聯ト專ヲ構フルノ結果ヲ來タスヘク此ノ案ハ採ルヘキニ非ス

第二ノ方策ハ至難ノ大業ナリト雖皇國ノ使命ニ顧ミ日本民族發展膨脹ノ實情ニ徴シ已ムニ已マレサル歴史的過程ナリト信ス策ノ宜シキヲ得不退轉ノ決意ヲ以テセハ却テ大戦ヲ惹起セスシテ十分ノ效果ヲ收ムルコトヲ得ヘシ然ラハ如何ナル方途アリヤ他ナシ南支政策ニ依ル方策是レナリ概ネ左ノ如シ

抑々英國ノ最モ頼ミトスル所ハ印度ナリ而シテ最モ恐ルル所亦印度ナリ故ニ我國トシテハ廣東廣西ヨリ更ニ雲南ヲ攻略シ南支方面一帯ヲ其ノ勢力下ニ置キ以テ陸路「ビルマ」ヲ通シ印度ヲ突カントスル氣勢ヲ示シ或ハ印度ヲ攪亂セントスル氣配ヲ示ス等印度ニ對シ不斷ノ脅威ヲ與フルニ於テハ英國ノ苦痛之ニ過クルモノナク遂ニ外交場裡ニ於テ英國ハ我方主張ニ屈服スルニ至ルヘク茲ニ我聖戰ノ目的タル東亞新秩序ノ建設ハ見事成就スルコトヲ得ヘシ而シテ陸路印度ヲ制スルハ比較的米國ヲ刺激スルコトナクシテ目的ヲ達スルヲ得且ツ重慶政府ハ殘余只一ノ生命線ヲ切斷セラレ意々没落スルノ外ナカルヘク一石二鳥三鳥ノ效果ヲ舉グルコトヲ得シ雲南ハ山嶽重疊自然ノ城塞ヲ爲シ兵ヲ進ムルコト困難ナルモ廣西方面ヨリ上陸シ西江ヲ利用シ百色ニ出テ蒙自ニ進ミ滇越鐵路ヲ經スルコトニ依リ雲南ノ死命ヲ制シ得ルモノナリ雲南政府首席顧問ハ日本軍ノ援助アラハ反蔣獨立宣言ノ可能性アルヘク雲南攻略ニ

好マサルノ趨勢ニアリテ右ハ陰スル所英國勢力ノ然ラシムル所ナ
 リ然ルニ前記南支政策ヲ以テ我方カ常ニ英國ヲ脅威スルニ於テハ
 結局南洋ニ對シテモ我方平和的進出ヲ認メサルヲ得サルニ至ルヘ
 ク從テ我國ハ不足資源ヲ南洋ニ確保スルコトヲ得自給自足策亦之
 ニ依リ完備スヘキナリ

當リテハ先ツ之カ懷柔ヲ計リ西南ニ對シテモ宣撫工作ヲ進ムルコ
 ト肝要ナリ
 「ソ」聯ニ對シテハ前記ノ如ク同國カ積極的進出ノ能力ナキ情勢
 ヲ利用シ專ラ守勢ヲ以テ當ルノ方策ヲ樹テ一面日獨伊防共陣ヲ以
 テ政治的ニ威壓シ彼ヲシテ印度洋方面ニ進出セシムヘク誘導スヘ
 キナリ
 日獨伊樞軸ハ之ヲ強化シ完全ナル軍事同盟ト爲シ英國ニ對スル脅
 威ヲ一層增高シ以テ目的ノ貫徹ヲ期セサルヘカラス右同盟ハ米歐
 ヲ驅ツテ英佛同盟ニ參加セシムヘシトノ憂モアランモ日英戰爭惹
 起ノ曉ハ格別單ニ日獨伊同盟成立ノミニテ米歐カ戰爭ニ捲キ込マ
 ルルカ如キ方途ニ出ツルモノトハ思考シ得ラレサルナリ
 英 世界ノ大勢ヨリ見テ今後長年ノ間本邦カ自給自足ノ策ヲ樹ツルノ
 要アルハ當然ノ理ナル處我國ニ缺クルハーツニ熱帶資源ナリ然ル
 ニ熱帶資源ノ產地タル南洋地方ハ近年我國ニ對シ平和的進出ダニ

一、抗日外國勢力
事變收拾ノ根本方策概要

今次支那事變ニ於テ抗日支那政權ノ背後ニ外國アルコトハ周知ノ事實ニシテ就中英國ハ其ノ財力ヲ利用シテ支那幣制ヲ支持シ或ハ貿易上ノ「クレヂット」ヲ附與シ或ハビルマヲ通シテ武器彈藥ノ補給ニ利便ヲ與ヘ或ハ在支英國官憲ヲ通シテ日本ノ行動ヲ妨害スル等ノ政策ヲ採リツツアルノミナラス外交上極力支那ヲ支援スルノ態度ニ出テ國際聯盟ヲシテ支那支援ノ決議ヲ採擇セシメ或ハ九ヶ國條約國會議ヲ召集セシメテ之ヲシテ反日決議ヲ通過セシメ或ハ米、佛、ソ聯邦トノ密接ナル連絡ニ依リ日本ノ行動ヲ牽制セシメント企圖シツツアリタリ、佛國ハ歐洲ニ於ケル英國ノ同盟國タル關係上英國ノ對支政策ニ追隨シテ反日的態度ニ出テ居リ最近ニ於テハ稍其ノ態度ヲ修正シテ中立ニ傾カントシツツアルモノノ如キモ依然英國ニ引キツラレルノ實情ニシテ殊ニ佛印當局ノ態度ハ

日本のニシテ國民政府ニ對スル武器供給ニ便益ヲ與ヘ居ルノ状態ナリ、米國ハ中立的態度ヲ維持シツツモ日本ノ對支軍事行動ニ對シテハ不承認主義ノ立場ヲ採リ輿論モ亦概シテ支那ニ同情的ニシテ殊ニ現行政府ハ對日飛行機ノ輸出ヲ禁止シ居リ且中立法ヲ修正シテ對日軍需品ノ禁止ヲ斷行セント企圖シ或ハ門戶開放ノ原則ヲ堅持シテ日本ノ行動ヲ牽制シ或ハ日本ノ空爆ニ對シ嚴重ナル抗議ヲ提出シ亦最近ニハ新事態ニ即應スル米國權益ノ擁護増進ヲ理由トシテ突如現行日米通商條約ノ廢棄ヲ通告スル等現政府ノ對日態度ハ決シテ良好ト云フヘカラス然レトモ支那ニ於テ日本ト最モ衝突ノ危険多キハソ聯邦ヲ除キテハ英國ナリ英國ハ支那ニ於テ五億磅ノ投資ヲ有シ貿易額ニ於テ英本國ハ米、獨、日本ニ劣ルト雖モ英帝國全體トシテハ列國ノ首位ヲ占メ其ノ在支權益ハ列強ノ夫レニ冠タルモノナリ英國ノ老ナル權益ハ即チ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ最大障礙タルモノニシテ英國ノ反日政策ノ淵源ハ茲ニ在ルナリ

英國ハ從來日英同盟ニ依リ右權益ヲ擁護増進セルガ歐洲大戰後ハ米國トノ協調政策ニ依リ日英同盟ヲ廢棄シ且華府海軍條約及九ヶ國條約等ヲ締結セシメテ極東ニ於ケル日本ノ勢力ヲ抑制スルニ成功セリ然ルニ日本ノ勃興ト共ニ英國ハ支那ニ於テ日本ト衝突セルノミナラス全世界ニ於テ通商上日本ト衝突スルニ至レリ英國ハ一九二四年蔣介石ヲ中心トスル南京政府ノ樹立ヲ援助シ爾來南京政府ニ依ル支那ノ全國統一運動ヲ通シテ事毎ニ日本ノ權益ヲ無視スルノ態度ニ出テタルカ右反日政策ハ滿洲事變ヲ通シテ益々強化セラレ其後國民政府ノ幣制改革ヲ援助シテロンドン南京間ノ提携ハ強靱ヲ加ヘ今次事變ト共ニ英國ハ總ニル手段ニ依リ其ノ在支權益擁護ヲ名トシテ日本ノ行動ヲ阻害スルノ方針ヲ採レリ

他面英國ハオタワ會議以來通商上ニ於テモ日本壓迫ノ手段ヲ解シ殖民地ニ於ケル輸入制限ヲ斷行シ日印、日濠通商等ニ對シテオタワ協定ヲ武器トシテ日本商品進出ヲ阻止スルニ努力セリ右ノ如

キ英國ノ對日政策ハ日本ニ於ケル反英感情ヲ刺戟スル處アリ日獨伊防共協定ノ締結ニ依リ日英間ノ疎隔ハ増大セルガ英佛ソ三國同盟成立セハ益々日英間ノ空氣ヲ險惡化セシムルコトハ疑ナキ處ナリ、ソ聯邦ハ世界革命ヲ終局ノ目標トナシ居ル關係上資本主義國家トシ協力モ一時的ニシテ其ノ誠意ハ遽カニ信賴シ難キモ現在歐洲國境ノ防衛上積極的ニ極東ニ手ヲ出ス餘裕ナキモ若シ英佛ソ三國同盟ノ出現ニ依リソ聯カ極東ニ紛擾ヲ起ストセハ其ノ主謀者ハ實ニ英國ナリト斷セサルヘカラス故ニ今後日支提携ノ實現ヲ期セントセハ勢ヒ對英問題ヲ處理スルノ緊要事タルハ言ヲ俟タス

對英政策

抑英國ガ援蔣政策ヲ固執スル直接ノ原因ハ支那ニ於ケル英國權益ノ擁護ニ在リ、支那ニ於ケル英國ノ權益ハ重要ナルカ世界全盤ニ巨ル廣汎ナル英國權益全体ニ比較セハ其ノ五パーセントニ過キサモノニシテ英國ハ戰爭ヲ賭シテモ支那ニ於ケル權益ヲ飽ク迄擁護スヘキ決意アルヤ否ヤハ國際情勢ヨリ推シテ疑ナキ能ハズ、然レトモ支那ニ於ケル英國權益ノ拋棄ハ聽テ極東ニ於ケル英國權益ノ喪失ヲ招來スルニ至ルヘク即チ英國ノ最モ恐ルル處ハ支那ニ於ケル英國ノ全面的敗退カ極東ニ於ケル英國ノブレステイジヲ害シ其ノ廣大ナル領土ニ於ケル支配權ニ動搖ヲ生スル虞アルコトニシテ此ノ意味ニ於テ支那ニ於ケル英國權益ノ擁護ハ英國ノ死活ノ問題ナリ故ニ英國ノブレステイジヲ含ム支那ニ於ケル英國權益ノ擁護ト云フ一般的問題ニ關シテハ英國ハ飽ク迄日本ト抗爭スルモノト覺悟セサルヘカラズ右英國權益擁護ヲ根幹トスル英國ノ一般政

策ハ一八四二年ノ南京條約以來支那ニ於テ英國ガ獲得セル種々ノ條約上ノ權利ヲ基礎トセルモノニシテ具體的ニ之ヲ固執スルニ於テハ到底日本ノ東亞ニ於ケル新秩序建設ヲ目的トスル根本方針ト相容レサルノミナラス日本ノ支那ニ於ケル軍事行動ヲ著ク阻害スルモノナルコトハ今次事變ニ於ケル種々ノ日英紛争ニ於テ我國民ノ痛感セル處ナリ故ニ支那事變處理ノ根本問題トシテハ日本ハ我根本方針ト相容レサル英國ノ在支權益ノ徹底的調整ヲ要求セサルヘカラサル所以ニシテ之カ爲メニハ戰爭ヲ堵スルノ決意カ必要ナリ日本ハ支那ニ於ケル英國權益尊重ノ範圍ヲ其ノ純經濟的權益ニ限定シ政治的要素ヲ包含スル支那ニ於ケル英國ノ特權及獨占的權利ハ總テ之ヲ拋棄スルコトヲ要求スヘキナリ而シテ之カ前提トシテ日本ハ先ツ英國ノ援蔣政策ノ全面的拋棄ヲ承認セシムヘキナリ英國ハ右ノ如キ日本ノ要求ニ對シテハ支那ニ於ケル一般條約ニ關係スル問題トシテ極力讓歩スルコトヲ拒ミ或ハ第三國ヲ引キ入

雲南政略

抑モ英國カ今回日本ノ對支軍事行動ヲ承認シ害我利敵ノ措置ヲ控
 制スヘキ旨ヲ約セルハ一方ニ於テ歐洲問題ヲ控エ居ルト他方ニ於
 テ右交戦權ノ承認ガ一般外國權益ニ直接影響ヲ及ホスコト少ク從
 ツテ日本トノ妥協ニ依リ戰爭ノ危險ヲ避ケテ其ノ對支權益殊ニ中
 南支方面ニ於ケル重大ナル權益ヲ擁護セントノ建前ニ出テタルハ
 當然ニシテ右ハ英國ノ現實外交ニ歸着スルモノナリ故ニ右議步ヲ
 以テ直チニ英國カ日本ニ屈服シ蔣援政策ヲ捨テタルモノト樂觀シ
 得サルハ勿論英國ハ米國ノ協調ヲ得サヘスレバ九國條約ヲ援用シ
 テ日本軍制支那援助ヲ企圖スルノ機會ヲ覗フコトハ必然ナリト考
 ヘサルヘカラス或ハ英國カ天津問題ニ關シ讓步セルハ國民政府ノ
 對日長期抗戰ノ可能ニ付キ見極メ付キタルニ依ルモノト推察セラ
 レサルニ非ス英國カ歐洲危機ヲ目前ニシ英佛ソ三國協定ノ行儀ニ
 直面シ且米國ノ積極的協同動作ヲ望ミ得サル現状ニ於テ其ノ支那

レテ日本ノ要求ニ反對スヘキハ明カナルモ日本トシテハ個々ニ關
 係國ト交渉スルノ建前ヲ堅持シツツ第三國殊ニ米國ト英國トノ協調
 ラ防壓スヘキナリ英國ハ今次ノ東京會談ニ於テ天津租界問題ニ關
 聯スル一般の討議ニ於テ我方ノ要求セル交戦權ニ關スル一般原則
 ヲ承認セルカ一般對支政策ヲ全面的ニ變更セルモノト見ルハ早計
 ニシテチエンバレン首相モ同日下院ニ於ケル質問ニ答ヘ日英間ノ
 了解ハ英國ノ對支政策變更ヲ意味セスト答ヘハリフアクス外相モ
 亦同日上院ニ於テ右ハ將來ノ事件ニ付英國カ抗議スルノ權利ヲ封
 スルモノニアラズト言明セリ故ニ日本ハ此ノ機會ヲ逸セス英國ニ
 對シ東亞ノ新秩序建設ヲ目的トスル日本ノ根本方針ニ全面的ニ協
 力スヘキヲ要求スルコト緊急ノ問題ナリ右要求貫徹ノ最モ適切ナ
 ル手段トシテ吾人ノ考フルコトハ第一ニハ支那ニ於ケル排英運動
 ヲ助長スルト同時ニ英國ノ最モ恐ルル印度ニ脅威ヲ與フルニ在リ
 第二ニハ日獨伊軍事同盟ノ締結是レナリ

殊ニ中南支ニ於ケル權益ヲ擁護セシカ爲メ日本ニ讓步セサルヲ得
 サル立場ニ在リシハ當然ト云ヒ得ヘキニシテ中南支ニ於ケル英國
 權益ヲ繞リテ日英間ノ摩擦ハ依然トシテ殘レルノミナラズ一般條
 約問題ニ關スル日英紛争解決如何コソ英國ノ對支政策ノ全面的轉
 換ヲ包含スル重大問題ニシテ而シテ右ノ如キ意味ニ於ケル英國ノ
 極東政策ノ大變更ハ日支兩國提携ノ先決要件ヲ爲スモノナルコト
 ハ亦明瞭ナリ日本ガ斷乎タル決意ヲ以テ英國ニ對シ右ノ如キ其ノ
 極東政策ノ根本的變更ヲ迫ル場合英國カ果シテ日本ノ要求ニ屈ス
 ルヤ否ヤ逆睹シ難ク日本トシテハ一戰ヲ辭セサルノ覺悟ヲ決セザ
 ルヘカラス之ニ對シ英國ハ米國ノ參加ヲ得ハ強力ニ訴フルニ至ル
 ヘキモ米國ノ參加ヲ得サル場合ハ武力以外ノ總ニル威嚇手段ヲ用
 ヒテ日本ヲ屈服セシメント努力スヘク或ハ國民政府ニ對スル援助
 ノ強化或ハソ聯邦ニ對スル對日牽制行動ノ使喚或ハ其ノ廣汎ナル
 領土ヲ利用シ且豊富ナル財力ヲ頼ミテ種々ノ經濟的壓迫行爲ニ出

テテ日本ノ意圖ヲ挫折セシメント計ルハ必然ナリ斯ル英國ノ企圖
 ヲ未然ニ挫クヘキ最モ有效適切ナル手段ハ雲南ヲ攻略シテ雲南
 廣西、廣東等南支一帯ヲ日本ノ勢力下ニ置キ印度ニ對シ不斷ノ脅
 威ヲ與フルコトナリ
 雲南ハ山嶽重疊自然ノ城塞ヲ爲シ兵ヲ進ムルコト極メテ困難ニシ
 テ嘗テ袁世凱ハ四川省方面ヨリ攻撃セルコトアルモ廣西省方面ヨ
 リノ攻撃ハ更ニ困難ヲ伴フモノト推セラルル處廣西省ヲ遮斷セハ
 同方面ヨリ西江ヲ利用シ百色ニ出テ百色ヨリ越境シテ蒙自ニ進ミ
 滇越鐵路ヲ扼スルコトニ依リ雲南ノ死命ヲ制シ得ルモノナリ百色
 ヨリ雲南省東南部一帯ハ道路險惡ニシテ百色廣南間ハ十一日行程
 ト稱セラル。廣南ヨリ昆明迄ハ十四日行程ナルモ廣南ヨリ蒙自ニ
 出ツルハ之ヨリ遙カニ捷徑ナリ雲南政略ニハ廣東ヨリ粵漢線ヲ抑
 ヘテ中央軍ノ南下ニ備フルト共ニ先ツ廣西ヲ占據シ雲南ヲ孤立セ
 シムヘキナリ雲南政府ノ首席タル龍雲ハ日本軍ノ援助アラハ反蔣

ナルガ故種々ノ困難アルモ之ヲ斷行スルノ要アリ西南地方ノ大部
 分カ未開發ニシテ其ノ豐富ナル資源カ將來開發セラルルニ至ラハ
 經濟的價值ノ莫大ナルヤ言フ迄モ無ク殊ニ雲南、廣西、廣東地方
 ハ軍事上ノ必需品タル特種鐵ノ埋藏量豐富ナルガ故ニ國防上ノ點
 ヨリ見ルモ同地方ヲ確保シ置クコト必要ナリト云フヘシ

獨立ノ宣言ヲ爲スノ可能性モ十分アレハ雲南攻略ニ當リテハ先ツ
 之ヲ懷柔スルコトヲ得策トスヘク又廣西派モ表面抗日ヲ唱フルモ
 裏面ハ廣東、廣西ヲ地盤トシテ獨立シタキ希望ヲ有スルコトハ推
 スルニ難カラサルガ故ニ之ニ對シテモ宣撫工作ヲ進ムルコト必要
 ナリ抑モ雲南、廣西、廣東諸省ハ四川、貴州、江西、湖南、福建
 各省ト共ニ所謂西南地方ヲ構成シ重慶政府ノ經濟的地盤ヲ形成ス
 ルモノナルガ故ニ雲南、廣西、廣東三省ニ獨立政權ヲ樹立セハ之
 ニ依リ重慶ハ其ノ生命線ヲ斷タレタルモノニシテ短期間ニ沒落ス
 ルノ外ナカルヘシ支那中央政府樹立後新支那ノ建設ニ對シ西南地
 方ノ政治及經濟上有スル重要性ハ言フ込モナク而モ之等地方カ日
 本ノ勢力下ニ在ルコトハ英佛ニ對シ不斷ノ脅威ヲ與ヘ著シク其ノ
 行動ヲ制肘スルヤ明カナリ斯クノ如ク雲南攻略ハ第一ニ英國ノ抗
 日態度ヲ變更セシメ第二ニ蔣政權ノ沒落ヲ早メ第三ニ新支那ノ建
 設ニ對シ重要ナル役割ヲ占ムル等ノ極メテ重要ナル意義アルモノ

支那事變ニ際シ日本ニ最モ害アル態度ヲトレルモノハ英國及ソ聯邦ナルコトハ明瞭ナル事實ニシテ或ハ對支借款ニ或ハ武器援助ニ或ハ條約ヲ楯トスル外交政策ニ依リ對支援助ヲ爲シツツアル現狀ナル處英國ハ今般ノ天津租界問題ニ關スル東京會談ニ於テ害我利敵ノ措置ヲ爲サザルヘキコトヲ一般的ニ承認セリト雖モ其ノ支那ニ於ケル英國權益ト支那事變處理ニ關スル我根本方針トノ調整コソ今後ニ於ケル根本的問題ニシテ英國ト我國トノ摩擦ハ今後多端ナルモノト覺悟セザルベカラズ、ソ聯邦ト支那トノ關係ヲ見ルニソ聯邦ハ支那ニ於ケル共產派ヲ支持スト雖モ必スシモ蔣政權ニ對シテ全幅的支持ヲ爲シ居ルモノニアラス其ノ對支態度ハ寧ろ微温的ニシテ例ハ孫科ノ奔走ニ拘ラスソ支同盟條約ハ成立スルニ至ラズ且對支武器援助モ主トシテバーター・システムニ依リ實行セラ

結ニ依リ激化セラルルニ至レルガ滿洲國成立前ニ於ケルソ聯ノ對日態度ハ一般的政策ニ基ク以外必スシモ日本ヲ敵トシテ諸種ノ侵略的軍事施設ヲ爲セルモノニ非スシテ現ニソ聯邦ハ日本ニ對シ不可侵條約ヲ提議セル事實アリタリソ聯ガ日本ヲ敵國視スルニ至リタルハ滿洲國ノ建設ニ依リ日本ノ意圖ヲ恐レタル折柄日獨防共協定ニ依リ日本ノ脅威ヲ感スルニ至レル爲ナリソ聯ノ最モ恐レルハ獨逸ニシテ獨逸ノ東方政策ガソ聯邦ノ崩壞ヲ來サンコトヲ極度ニ憂慮シ全力ヲ擧ケテ獨逸ニ備フル處アリシガ日獨防共協定ニ基キ極東ト歐洲ニ於テ腹背兩面ニ脅威ヲ受ケ極東ニ於ケル軍備ヲ強化スルト同時ニ日本ノ力ヲ弱メンガ爲メ援蔣政策ヲ遂行シ居ル次第ニシテ日本ニシテ斷乎タル態度ヲ示セハ對日戰爭ヲ堵スルノ意志ナキコトハ過般ノ張鼓峯事件ニ徴シテモ明カニシテ亦事實極東ニ手ヲ延ス余裕モナキモノナリ茫漠タル不毛ノ極東驛領ニ比スレハ其ノ豐饒ナル歐露ガソ聯邦ニ取り死活ノ問題タルハ言フ迄モナク

ソ聯ニトリ最モ恐ルヘキ敵ハ獨逸ナリ從ツテソ聯邦トシテハ極力歐洲ニ對シテ備ヘサルヘカラス、現下ノ歐洲情勢ハ一方ニ於テ英佛同盟他方ニ於テ獨伊樞軸ヲ中心トシテ一觸即發ノ狀態ナルガ英佛兩國ノ軍備ハ獨伊兩國ノ夫レニ比シテ劣レルガ故ニ英國ハ英佛同盟ニソ聯邦ヲ加ヘテ英佛ソ三國同盟ヲ締結シテ勢力均衡ヲ計リ以テ武裝的平和ヲ維持セントシツツアリ然ルニ英國トソ聯邦トノ關係ハロシアノ帝政時代ニ於テ其ノ傳統的的政策タル南下政策ノ爲メ堪ヘス英國トノ衝突ヲ見タルカ現在ニ於テモソ聯邦ハ決シテ英國ニ對シ好意ヲ有スルモノニ非スシテ他方英國ニ於テモ殊ニ其ノ保守的分子ハソ聯邦ニ對シテ好感ヲ有セス現在スタールン政府ハ世界赤化ノ方針ヲ緩和シテ資本主義國トノ間ニ妥協的態度ヲ維持シテ一國社會主義ノ政策ヲ實行シ居レルモロシアノ南下政策ハ國民的熱望ニシテスタールント雖モ地中海沿岸又ハ印度洋沿岸ニ社會主義的國家ヲ建設セントノ望ヲ斷テルモノニ非ルコトハ推スル

ニ難カラズ從ツテ地中海ニ於テハ英佛伊諸國ノ利益ト衝突シ印度洋ニ於テハ英國ト摩撻ヲ生スヘキ慮アルコトハ英ソ兩國政治家ノ齋シク竊カニ憂慮スル處ナルヘカスルカ故ニ右兩國政治家ニシテ互ニ猜疑心ヲ藏スルモノ少カラサルハ疑ナキ處ナリ從ツテ英佛ソ三國同盟ノ如キモ英國及ソ聯邦ノ利害ハ緊密ナラサルモ僅カニ兩國力獨逸ヲ恐ルルノ點ニ於テ一致セルガ故ニ一時的ニ提携セントスルニ過キササルモノニシテ夫レカ獨伊樞軸ニ比シテ頗ル弱キ結合ナリト看做サルル次第ナリ觀ツテ極東ニ於ケル情勢ヲ見ルニ日本ハ現在大規模ノ聖戰ヲ遂行シツツアルガソノ背後ノ敵トシテ英ソ兩國ニ對立シ居レリ日本ハ獨力ヲ以テ英、ソ兩國ノ極東ニ於ケル勢力ニ對抗シ得ヘント雖モ米國カ英ソ側ニ加擔ストセハ日本ニトリ不利ナルハ言フ迄モナク右ノ如キ場合英ソ兩國ヲ歐洲ニ縛リツケ極東ニ於テ米國一國ニ對シ全力ヲ傾倒セサルヘカラス斯ル場合日獨伊三國同盟ニ依リ英及ソ聯邦ヲ牽制スルト同時ニソ聯邦トノ

國ニ對抗シテ局面ヲ打開セントスル事態ヲ現出セリ民族發展ニハ
 出來得ル限り犠牲ヲ少クシテ其ノ敵ヲ倒ササルヘカラス之カ爲メ
 ニハ一國ツツヲ相手トスルノ利益ナルゴトハ言フ迄モナクヒトラ
 ノ外交モ常ニ右方針ニ則レル處ナリ日本カ英、ソ兩國又ハ英、
 ソ、米三國ヲ相手トシテ戰フノ不利益ナルハ勿論ニシテ日本ハ極
 力之等三國ノ同盟ヲ防止セサルヘカラス然ラハ先ツ此等三國中ノ
 何レヲ敵トスヘキカ而シテ何レノ二國ヲ味方トシ或ハ少クトモ中
 立ヲ保タシムヘキカ日本ハ現在對支戰爭ヲ續行シツツアルモ支那
 カ日本ノ眞ノ敵ニ非サルコトハ事變勃發ニ際シテ既ニ一般朝野ノ
 認識セル處ニシテ日本ノ眞ノ敵ハ支那ノ背後ニ在リシ英國乃至ソ
 聯邦ニアリシコトハ我國民ノ確信セシ處ナリ

一時的妥協ニ依リ英米兩國ニ對抗スルコト必要ナリ抑モ歐米諸國
 中極東ニ於テ最モ深キ利益關係ヲ有スルモノハ言フ迄モナクソ聯
 邦及英國ノ二國ニシテ日本ガ民族發展上最モ摩摻ヲ生スヘキ國家
 ハ英國及ソ聯邦ニシテ之カ爲メ日本ハ過去ニ於テ日英同盟ヲ基調
 トシテ對露戰爭ヲ遂行シ極東ニ於ケルロシアノ侵略行動ヲ阻止シ
 タルガ日露戰爭後ハ對露協調ニ努力シ歐洲大戰中ニハ遂ニ日露同
 盟ニ發展セリ而シテ大戰後ロシア帝政ノ没落ソヴィエツト政府ノ
 確立ニ依リ兩國關係ハ一變シ最近ニ於テハ滿洲事變ニ依ル滿洲國
 ノ成立、ソ聯邦ノ極東軍備充實、日獨伊防共協定及支那事變ノ勃
 發ニ依リ日ソ間ノ關係ハ惡化スルニ至レリ斯クテ極東ニ於ケル主
 要利害關係國タル日、英、ソ聯邦ノ三國關係ハ日本對英國及ソ聯
 邦ノ對立關係ニ轉化シ日本ハ極東ニ於ケル反日勢力トシテ英及ソ
 聯邦兩國ニ直面スルモノナリ、嘗テ日本ハ日英同盟及日露同盟ニ依
 リ極東ノ平和ト日本ノ發展トヲ計ラントセルカ今ヤ英ソ同盟及米

然レ共日本ハ此等二國ヲ同時ニ敵ニ廻スコトハ不利益ナルカ故ニ先ツ其ノ中日本ニ最モ有害ナル敵ヲ打倒セザルベカラズ而シテ他ノ一國又ハ二國ニ對シテハ極力敵國トノ同盟ヲ阻止スル手段ヲ講スルト同時ニ日本ノ味方タルヘキ國家トノ提携ヲ強化スルコト必要ナリ日露戰爭當時ロシアノ侵略的行爲ニ依リ極東殊ニ支那ニ於テ優越ナル權益ヲ擁シ而モ當時獨、佛、露ノ三國提携ニ依リ孤立セル英國カ右權益ノ擁護ニ付危虞ヲ感シ光榮アル孤立政策ヲ拋棄シテ日英同盟ヲ締結シ日本ヲシテロシアト戰ハシムルニ至リシコトハ當時獨米兩國及日露提携機運カ日英同盟締結ニ貢獻スル處アリタリト雖モ亦英國外交ノ勝利ト云ハサルヘカラスロシアノ敗戦後支那ニ於ケル主人ハ英國ニシテ英國ハ日英同盟ヲ利用シテ其ノ擄取的政策ヲ遂行シテ飽クコトヲ知ラザリシモ而モ漸次日本ノ勢力カ滿洲ヨリ支那ニ及フニ至ツテハ日英間ノ摩擦ハ表面化シ日本ニ於テモ日英同盟ヲ無用ナリトスルノ論ハ識者間ニ唱道セラレタ

リ然シ乍ラ兎モ角日本ハ日英同盟ヲ根幹トシテ世界大戰ニ參戰シタルカ日本ノ得タル報酬ハ日英同盟ノ廢棄ト支那ニ於ケル英國ノ背景トスル排日及全世界ニ於ケル英國ノ對日經濟的壓迫ナリ昨日ノ同盟國タリシ英國ハ華府會議ヲ初メ支那ニ於ケル國民軍ノ全國統一運動及滿洲事變ヲ通シテ支那ニ於ケル日本ノ行動ノ妨害ニ終始シタルカ斯ル日英摩擦ノ根本原因ヲ爲セルモノハ日本民族ノ勃興ニ伴フ日英兩國利害ノ全面的衝突ニアリ。從來支那ニ於ケル主人公タリシ英國ハ新興日本ノ爲メニソノヘゲモニトシテ挑戰セラレ而モ右日本ノ挑戰ハ日本民族生存發展ノ爲必要缺クヘカラサルモノナリトノ民族的精神ニ發露スルモノナリ加之世界各方面ニ於ケル日本ノ經濟的發展ニ對シ世界ニ跨ル廣大ナル權益ヲ擁シテ之ヲ獨占閉鎖セル英國ノ政策カ必然的ニ障礙タルヘキハ自明ノ理ニシテ日英衝突ハ兎ルヘカラサルモノナリ極東殊ニ東亞ニ於ケル日本ヲ盟主トスル新興國家ノ建設ト英國勢力ノ存在ハ兩立シ得サルモ

ノニシテ英國勢力ヲ東亞ヨリ全面的ニ驅逐セサル限り即チ東亞ニ於ケル英國ノ政治的特權ハ勿論其ノ獨占的通商貿易ヲ排除スルニ非レハ支那事變終局ノ目的ヲ達シ得サルモノナリ換言セハ英國トノ妥協ハ即チ其レ丈東亞ニ於ケル新秩序ノ建設ヲ遲延セシムルモノナリ他面ソ聯邦カ侵略的國民性ヲ有スルコトハ歴史ノ證明スル處ニシテ現在ニ於テハ一國社會主義政策ノ下ニ平和的政策ヲ採レルカ如キモロシア國家ノ母體ヲ爲ス共產黨カ世界赤化政策ヲ拋棄セルモノニ非ルコトハ明カニシテ總テ國內事情ガ整備シ國力充實セハ世界赤化政策ヲ基本トスル侵略的行動ニ出ツヘキハ疑ナキ處ナリ

右ノ如キロシアノ魔手ヲ東亞ニ延スコトハ日本トシテ許スヘカラサル處ニシテソ聯邦ノ支那及滿洲國ニ對スル侵略的赤化工作ハ斷乎トシテ之ヲ排撃セサルヘカラス然レトモソ聯邦カ地中海殊ニトルコ方面ニ或ハ印度洋方面ニ手ヲ延サンコトニ對シテハ日本トシテハ痛痒ヲ感セザルノミナラズ却ツテロシアノ手ヲ東亞ヨリ引カシメ英國ト衝突セシムルニ好都合ナリト云フヘシ、ロシアガ滿洲國ノ現狀ヲ承認シ且支那ニ於ケル侵略的行動ト赤化運動ヲ止ムルニ於テハソ聯邦ハ必スシモ日本ニ對シ脅威ト云フヘカラス殊ニ歐洲ニ於ケル情勢トロシアノ國內事情ヨリ極東方面ニロシアガ積極的行動ヲ開始シ得サル現狀ニ於テハ日本トシテハロシアヲ恐ルルヲ要セス直チニ之ヲ敵トシ攻撃スルニ及ハサルナリ、共產黨ハ日本ノ敵ナルモ共產黨ガロシア一國內ニ於テ活動スル限り日本ニ害ナク共產黨ノ國家タルソ聯邦カ東亞ニ於テ侵略的行動ヲ爲ササル限りソ聯邦ヲ敵ニ視ス必要ナキナリ、ソ聯邦ハソ支問ノ所謂平等

條約ニ依リ舊帝政時代ニロシアガ支那ニ於テ享有セル種々ノ特權ヲ拋棄シタルガ故ニ支那ニ於ケルソ聯邦ノ權益ハ新興支那ノ建設ニ對シ障害タルヘキモノナク唯問題トナルハソ聯ノ極東ニ於ケル侵略的行爲トコムインテルノ赤化工作ナリ然シ乍ラ右問題ヲ包含スル日ソ間ノ妥協ハ必スシモ絶望ニアラス滿洲ニ於ケル兩國間ノ休戰協定ヲ締結スルコトカ先決條件ナリソ聯ガ滿洲國ノ現狀ヲ認ムルニ於テハ日本ハ外蒙古及新疆ニ於ケル現狀ヲ認ムル必要アルヘシ

日獨防共協定ハ日獨兩國カ共產黨トハ相容レサル國体ニシテ共產黨ノ害惡ヨリ其ノ精粹ヲ守ラントスル道德的精神ヨリ生シタルモノニシテ共產黨方過去ニ於ケル民族文明ノ破壞ヲ目的トスル以上右防共協定ノ精神ハ益々昂揚セラレテ洵ルコトナカルヘシ防共協定ハ右ノ如キ道德的觀念ヲ基礎トセルモノニシテ假想敵國ヲ目的トセル改守同盟ニアラズ日獨兩國ノ經濟的利害ハ必スシモ一致セ

サルモノアリト雖モ既ニ防共協定ニ依リ結バレタル兩國家ハ道德的觀念ニ於テ一致スルト同時ニ兩民族發展ノ爲メ現狀ヲ打破セントスル政治上ノ目的ニ於テ相通スルモノニシテ右目的ヲ達成セシカ爲メニハ英國ヲ共同ノ敵トスル點ニ於テ利害一致スルモノナリ獨逸ノ敵ハ佛國及英國ナリ、ソ聯邦ハ獨逸ニトリ好マシカラサル國家ナレトモ獨逸ノ最大脅威ニ非サルコトハ獨逸ノ最モ知ル處ニシテ獨逸ガ其ノ東方政策ヲ強行シテソ聯邦ノ邊境ヲ侵サザル限りソ聯ハ獨逸ニ對シテ攻勢ニ出ツルモノニアラズ然ルニ英國ハ獨逸國民ノ膨脹ニ對シテ不斷ノ脅威ヲ與フルモノニシテ獨逸ハ英國ガ存スル限り民族發展ノ死命ヲ制セラレ居ルモノニシテバルチツク海及北海ニ於ケル兩國ノ制覇ハ即チ歐洲ノミナラズ世界ニ於ケル兩國民發展ノ鍵ヲ握ルモノト云フヘシ從ツテ獨逸トシテハ東方政策ニ依リウクライナ方面ニ進出スル以前ニ先ツ『ラシド』及『リツアニア』等バルチツク海及北海方面ニ勢力ヲ扶殖シテ英國ニ備フル

コトガ最モ緊急ノ問題ナリ之カ爲メニハ獨逸ハ先バルト海方面ニ最モ利害關係アルソ聯邦ト一時妥協スルヲ得策トスヘク出來得ル限リ英佛ソ間ノ聯合ヲ防止スルノ要アルナリ

右ノ如キ見解ヲトル時ハ日獨間ノ利害ハ一致スヘク防共協定ハ勿論神聖ニシテ世界ノ敵タル共產黨ヲ目標トスルモソ聯邦ヲ假想敵國トスルモノニ非ズ兩國ノ共同ノ敵ハ英國ナリ故ニ英國ヲ敵トスル軍事同盟ヲ締結スルノ共同利益タルハ明カナリ斯クテ英佛同盟ニ對抗スル獨伊樞軸ハ日本ノ參加ニ依リ日獨伊樞軸トナリ右同盟關係ハ之ヲ歐洲及極東ニ及ボスコトトスヘキナリ右三國同盟ハ之ヲ武器トシテソ聯邦トノ妥協ヲ計リソ聯邦ノ英佛側ヘノ參加ヲ牽制シ得ヘク日本トシテハ英國及ソ聯邦ノ手ヲ歐洲ニ縛リ極東ニ於ケル障礙ヲ薄弱ナラシメ東亞ノ建設ヲ速カナラシムルヲ得ヘシ唯茲ニ問題トナルハ日獨伊三國同盟ニ對スル米國ノ態度ナリ、ソ聯邦ハ英佛同盟ニ參加スルニ至ルヘキモ元來ソ聯邦ハ資本主義的國家間ノ

戰爭ヲ勃發セシメテ世界ヲ擾亂シ自己ハ國外ニ立ツテ決定的支配ヲ振ハントノ野心アルガ故ニソ聯邦カ忠實ニ其ノ義務ヲ履行スヘキヤ否ヤハ疑問ニシテ殊ニ極東ニ於テ日英開戦ノ場合直チニ英國ヲ援助スルモノト認メラレズ、米國ハ日英或ハ日獨伊對英佛開戦ノ場合結局ハ英國側ニ立ツモノト思考シ置カサルヘカラサルモ日、獨、伊三國同盟ノ成立ニ依リ直チニ英佛同盟ニ參加スルモノニ非ズ從ツテ現實ノ問題トシテ日獨伊同盟ノ締結ハ世界戰爭ヲ意味スルモノニ非ズシテ却ツテ世界ニ於ケル武力的均衡ヲ維持シ斯クテ戰爭ニ訴フルコトナクシテ世界ノ現状ヲ調整シ得ヘク日本トシテハ極東ニ於ケル英佛ノ屈服ヲ強制シ且ツソ聯邦ヲ牽制シテ支那專横ヲ遠退スルニ有效適切ナル手段ヲ供スルモノニシテ更ニ米國ハ英佛カ戰爭ニ訴ヘサル限リ英佛同盟ニ參加セサルヘキガ故ニ三國同盟ハ英佛ヲシテ戰爭ヲ斷念セシムルト同時ニ米國ヲシテ中立ヲ維持セシムル效果アルモノナリ加之若シ米國カ英佛側ニ立ツ

場合ハ日本トシテハ全カヲ米國ニ傾倒シ得ヘキガ故ニ日獨伊三國
同盟ハ東亞ニ於ケル新秩序建設ニ對シ帝國外交ノ根幹タルヘキモ
ノナリ

南洋政策

支那事變處理ニ當リ考フヘキハ南洋方面ノ事情ニシテ日本ノ發展
ト東洋諸民族ノ福祉ノ爲メ南方政策ヲ決定シ置クノ重要ナルハ夙
ニ識者ノ認ムル處ナリ、南洋ニ對スル本邦ノ利害ハ軍事、政治及
經濟上極メテ密接ニシテ從來我國ハ南洋トハ歴史的關係ヲ有シ暹
羅ニ於ケル日本人ノ發展及比律賓ニ於ケル通商貿易等近代日本ノ
海外發展ノ先驅ヲ爲セルモノナルガ支那事變ニ於テハ此等方面ニ
於ケル驚クヘキ華僑ノ勢力ト植民地當局ノ對日壓迫政策トニ基キ
南洋一帯廣汎ナル地域ニ亘リ抗日威力ヲ振ヒタルコトハ深ク本邦
人ノ心ヲ衝キタリ吾人カ茲ニ南洋ト云フハ比律賓諸島、英領ボル
ネオ、サラワク、ブルネイ、蘭領印度、蘭領チモールヲ含ム地域
及アジア大陸ノ南端部佛領印度支那、暹羅、英領馬來ヲ形成スル
一帯ノ地域ヲ總稱スルモノニシテ南太平洋ニ於ケル我南洋委任統
治地域ハ之ニ包含セシメス即チ嘗テ三百餘年前我國ト交通貿易關

關係アリシコトニ鑑ミルモ明カナリ、然レトモ南洋カ本邦ノ發展上重要缺ク可カラサルノ地域タルヲ吾人カ認識セルニ至レルハ極メテ最近ニシテ而モ歐洲大戰後本邦カ此等地方ニ著シキ經濟的發展ヲ爲セルニ依ルモノナリ而シテ今次事變ニ於テ、作戰區域ガ南支ニ及ビテ本邦朝野ノ目ハ漸次南方ニ開ケ殊ニ南洋華僑ノ排日行爲及植民地官憲ノ反日政策ニ刺戟セラレテ南洋カ政治上及經濟上本邦ニトリ極メテ重要ノ地域タルコト認識セララルニ至レリ

南洋ニ對スル本邦ノ政策ハ從來經濟的進出ニ限ラレ商品市場乃至投資市場トシテノ觀點ヨリ經濟的利益ヲ宗トシテ此等植民地ノ本國トノ親善關係ノミヲ考慮セルガ故日本ト本國トノ競争激烈ヲ加フルヤ日本商品ニ對スル壓迫行爲トナリ本邦ハ貿易ニ投資ニ移殖民ニ種々ノ制限禁止ヲ受ケテ其ノ經濟的發展モ著シク阻害セララル結果トナレリ今後ハ日本ハ東亞ニ於ケル盟主トシテノ立場ヨリ本國政府ニ對シテハ植民地ノ開放ヲ要求スルト共ニ植民地民族ノ

係ノ密接ナリシ諸地方ニシテ其時代ニ吾人カ南蠻ト呼稱セシ地域ト殆一致スルモノナリ右南洋諸國ノ總面積ハ約三百八十萬平方千米ニシテ我國(外地ヲ含ム)ノ約五倍半ニ相當シ人口ハ約一億一千五百萬人ナリ南洋諸國ハタイ國即チ暹羅ヲ除キ總テ歐米諸國殊ニ英、蘭、佛、米諸國ノ植民地ナリ南洋ハ肥沃ナル土地ト豐富ナル天然資源ニ恵マレ世界ニ於ケル原料ノ主要供給地ナリ即チ膠膜、規那皮ハ世界產額ノ九〇パーセント以上ヲ產出シ、椰子油、ゴブラ、硬質纖維、カボック、カツサーヴ等ハ世界需要額ノ大半ヲ供給シ、錫及錫礦ハ世界生產額ノ五〇乃至六〇パーセントヲ石油ハ三パーセント、タングステンハ一〇パーセント以上、金ハ約二パーセントヲ產出ス、南洋ガ農林業及鑛業等ニ極メテ有望ノ地タルコトハ普ク知ラルル處ニシテ本邦人ノ移殖及投資ノ目的地トシテ果又重要ナル貿易市場トシテ將來重要缺クヘカラザル地域タルコトハ既ニ三百年以前ヨリ本邦ト之等地方トガ交通貿易上密接ナル

向上發展ノ爲メニ此等諸民族トノ提携協力を計ルコトヲ主眼トセサルヘカラス即チ本邦ノ移民、投資、貿易等ニ對スル差別的待遇ヲ撤廢セシメ土人トノ經濟的協力を計ルト共ニ土人ノ地位向上獨立國家ノ建設ニ對シテハ好意的態度ヲ示スコト必要ナリ彼上ノ觀點ヨリセハ南洋華僑對策モ自ラ明カニシテ此等南洋華僑ニ對スル植民地政府ノ差別的待遇ノ撤廢及華僑トノ經濟的協力ニ在リ換言セハ東亞ニ於ケル日支親善關係ヲ此等南洋華僑ニモ及ボスモノニシテ之ヲ妨害スル分子ニ對シテ斷乎タル取締ヲ要求スルモノナリ右ノ如キ政策ヲ實施スル場合最モ摩擦ヲ生スヘキハ英國ニシテ極東全般ニ於テ英國ガ日本ニ協力スルカ英國ノ勢力ヲ驅逐セサル限リ日本ノ發展及東洋平和ハ望ミ得サルモノナルコトハ明カニシテ英國ノ反日的態度ニ對シテハ斷乎タル決意ヲ以テ當ラサルヘカラス

要スルニ雲南攻略ヲ含ム南洋政策ニ依リ本南洋政策ヲモ自ラ解決スルコトヲ得ル次第ナリ

雲南省概況

附 錄

一、前積 十五萬三千八百九十二平方哩ニシテ我カ本州、四國、九州北海道ヲ合セタルモノニ殆同シ

二、人口 民國二十一年戶口調査ニ依レハ一一、七九五、四八六ニシテ一九三六年チヤイナ、イニヤ、ブツタニ依レハ一三、八二一、〇〇〇ナリ即チ約千二三百萬人ト見ルヲ得ヘシ、人口ノ七〇パーセントハ農民ニシテ十三パーセントハ職人トス

三、民族 人口ノ大半即約六〇パーセントハ漢族ニシテ雲南ノ主要民族ヲ構成セルカ古來雲南地方ニ居住セル民族ハ西藏、ビル

マ及シヤム系統ニ屬スル人種及土耳其人及此等民族ノ混合
種族ナリシカ元時代以來漢民族ノ移住多キヲ加ヘ今ヤ此等
民族ヲ邊境地帯ニ驅逐シテ優勢トナレリ

一、宗教 漢民族ハ儒教、教道ヲ主トス、他民族ハ佛教及回教ヲ信ス
ルモ回教徒ノ勢力ハ漸次衰ヘツツアリ

一、地形 雲南省ハ西藏大高原ノ東南ニ連リ地勢高峻ニシテ自然ノ城
寨ヲナシ即チ雲南府ハ海拔六千二百呎、蒙自ハ五千三百呎、思
茅ハ四千五百呎、騰越ハ五千四百呎ニ位シ其他各地概ネ四千呎
ヲ下ラス其ノ間高峯ハ一萬數千呎ニ至ル稀ナリトセス殊ニ西部
一帯「ビルマ」、西藏ニ接スル地方ハ高ク最モ低キハ佛領印度
支那ニ接スル地方ニシテ紅河沿岸河口（老關）ハ三百呎トス、

河川トシテ西藏ヨリ來ル瀾滄江、怒江（潞江）ノ大河アリ共ニ
「ビルマ」ニ入り前者ハ「メーコン」河トナリ後者ハ「サルウ
イン」河トナル、省内ニ河源ヲ有スル河流ノ大ナルモノニ南盤
北盤ノ二江アリ共ニ廣西省ニ入りテ西江ノ上流ヲ爲シ又紅河、
黒河ハ佛領印度支那ニ入ル然レ共之等河流ハ雲南省内ニ於テハ
全ク水運ノ利ナキモノト云フヘシ其他ノ河川ハ概ネ溪谷ノ間ヲ
流レテ水運ニ利スヘキモノ全クナキノミナラス冬期乾燥セル期
間灌溉上之ヲ利用スルニ極メテ困難ナリ然レトモ雲南省内ニハ
湖沼極メテ多ク湖沼ヲ繞リテ高原開ケ主要都市ハ其ノ附近ニ發
達シ省内ノ農食物ハ此等ノ平原ニ於テ供給セラレ且水上ノ交通
ヲ利用シテ各都市間ノ客貨ノ往來頻繁ナリ省内ニ於ケル重ナル

湖水ハ昆明附近ノ滇池ノ如キ周圍百哩以上ノモノヲ初メ十數湖ニ及フ

0296

一、氣候 氣候ハ乾濕二季ニ分レ六月ヨリ十月迄ハ濕季トシ此間ニ雨量稍多ク十一月ヨリ五月マテハ乾季ニシテ降雨極メテ稀ナリ夏季ノ溫度ハ華氏七十五度乃至八十度ニシテ八十五度以上ニ上ルコト少シ冬季ノ溫度ハ五十度内外ニシテ四十度以下ニ下ルコト少シ夏季高原地方ハ氣候良好ナルモ溪谷地方ハ瘴癘ノ氣多シ冬季雨量少キ爲メ高原ニテハ水ノ涸ルル處多シ

0 316

一、衛生 雲南ニ於ケル疾病ハ總ユル種類ヲ網羅シ居ルモ其ノ中重ナルモノハチブス、寒冒、肺炎、呼吸器病、赤痢ニシテ殊ニチブス患者最モ多ク赤痢之ニ次ク且又本省ハ高原地帯ニシテ空氣稀

薄ナルノミナラス冬期ハ乾氣ニシテ連日快晴ナルカ故ニ空氣一層乾燥稀薄トナリ之ニ反シ春夏期ハ雨期ニシテ濕氣多ク腐敗シ易キヲ以テ健康上好適ノ地ト云フヘカラス

0297

一、歴史 雲南ハ元來支那ニ於テハ南蠻ノ地ト見做サレ漢民族ノ支配範圍外ニ在リ唐代ニハ此ノ地方ニ南詔國(シヤン國)アリテ獨立國家トシテ勢力ヲ振ヒ其ノ勢ハ遠クヒルマ印度方面ニ及ヒタリシカ宋代ニハ大理國トナリ元代ニハ後理國ト改メシカ元ノ忽必烈之ヲ攻メテ元ノ版圖ニ加ヘテ統治スルニ及ヒ明及清之ヲ繼キ清代ニハ雲南ニ十四府、三直隸州、五直隸廳ヲ置キテ統治セシメタルモ僻遠ノ地ニハ殆ト獨立セル尊長制度ヲ施行シテ異民族ヲシテ自治セシメテ之ニ干涉セザリキ、民國トナリテモ清朝

0 317

ノ地方制ヲ襲用セルカ雲南ニ督軍ヲ置キテ之ヲ統治セシメシ爲
メ半ハ中央ト獨立シテ權力ヲ行使シ民國四年袁世凱ノ帝政ニ反
對シテ時ノ督軍唐繼堯ハ突如雲南獨立ヲ宣言シテ耳目ヲ聳動セ
シメ袁失脚ノ端ヲ作レルコトハ普ネク知ラルル處ナリ 國民政
府カ全國ヲ統一スルヤ雲南ヲ中央化スルニ苦心シ兎モ角全省ニ
國民政府ノ勢力ヲ及ホシ政治、軍事及經濟上全省ヲ中央政府ノ
權力下ニ置キ國民政府ノ命令ニ基キ省政府ヲ組織シテ益省ヲ統
轄セシム、省政府委員首席ハ龍雲ナリ全省ノ行政區域ハ百七縣
十五設治局、二特別區及一市區ニ分タル

一、產物 雲南全面積約十五萬平方哩中ノ約六〇パーセント荒地（開
墾シ得ヘキモノ）ニシテ約三〇パーセントハ荒山（
キテ田畝ト爲シ得ヘキモノ）ニシテ約三〇パーセントハ荒山（

殖林牧畜ニ適スルモノ）ニシテ開墾地ハ六パーセント弱ニ過キ
ス、重要農作物ハ米、麥、豆、玉蜀黍、茶等ニシテ穀上農作物
耕作面積ハ全耕地面積ノ約九四パーセントヲ占ム、就中米ノ夫
ハ約半ヲ占ム、雲南ハ耕地少キヲ以テ收入上古來阿片ノ栽培盛
ニ行ハレ錫ト並ビ輸出品ノ大宗ト稱セラレ一年ノ產額三千萬兩
ニ達シ政府ノ稅收百五十萬兩ニ上リ省財政ノ主要財源タリシモ
一九〇九年ノ禁烟令實施後輸出ヲ斷ツニ至リシモ今尙邊僻ノ地
ニ盛ニ栽培セラル

上述ノ如ク雲南省ノ大部分ハ山嶽地帯ニシテ開墾地極メテ少キ
ノミナラズ灌溉ノ便ニ乏シキ爲農作物ノ生産ニハ感マレス食料
トシテハ省内尙人口稀薄ナル爲僅カニ省内産ノ米ヲ以テ間ニ合

第一 蒙自税關ノ管轄ニ屬スル滇越鐵路及紅河ノ水運ニ依ル海防
 香港其他外國トノ貿易路、滇越鐵路雲南府、河口（老開）間
 四七〇杆（三四三哩）老開海防間三三三杆（一八五哩）トス

第二 騰越税關ノ管轄ニ屬スル緬甸トノ商路、(1) 巴莫騰越間百二
 十哩騰越大理間二百六十四哩、大理雲南間三百十五哩雲南バ
 ーモ間合計六百九十五哩トス道路極メテ險峻ナリ、(2) 前記雲
 南ヨリ大理ニ出テ大理ヨリ保山（永昌）ヲ經テ南下シ怒江ノ
 本流附近ヲ通りビルマ國境ニ出テビルマ鐵道ノ他ノ終點タル
 昆崙波ニ出テ(3) 省城ヨリ思第ニ出テ思第ヨリ南行シテビルマ
 領メーコン河ノ洪江ニ達ス、省城、思第間五百五十哩、思第
 ビルマ國境間約百哩トス、本路ハ比較的平坦ナルヲ澤澤ニシ

セ居ルモ人口増加セハ省民ノ主食タル米ハビルマ、安南方面ヨ
 リ之ヲ補給スルヲ要スル次第ナリ農産物ノ外雲南省ハ礦物資源
 ニ恵マレ居ル關係上重要産物トシテハ礦物ニシテ殊ニ錫ハ支那
 第一ノ産地テアリ其ノ大部分ハ英國等ノ外國ニ輸出セララル又雲
 南ハ井鹽、岩鹽ヲ多量ニ産シ省内需要ヲ充スニ十分ナリ

雲南省ノ特産物トシテハ藥材、麝香、「キユナオ」、皮革類、
 毛皮類、豆類、茶等ノ土産品ト共ニ銅、亞鉛、「アンモニー」、
 錫等ノ礦産物テアツテ此等物品ハ雲南輸出品ノ主要部分ヲ占ム

交通 雲南省ハ東ニ廣西、貴州ノ兩省、西南ニビルマ、南ハ佛領
 印度支那、北ハ四川省及西康省ト境ヲ接シ交通及貿易路トシテ
 主要ナルモノ約七ツアリ

テ雨期ノ際使用困難トス

(第三) 雲南省北部一帯ヨリ四川省徐州、瀘州ヲ經テ重慶ニ出ツル商路、雲南省城ヨリ東北ニ向ヒ板橋、福林、東川、昭通、大關、塩津(即チ老鴉灘)ヲ經テ四川省ノ徐州ニ至ル雲南徐州間四百七十哩トス塩津徐州間ハ水路ヲ利用ス、徐州ヨリ重慶迄ハ六百三十支里約二百二十哩トス本道ハ赤土若ハ岩石ノ狹隘ナル山道ニシテ急峻ナル部分アリ

(第四) 省城ヨリ楊林、曲靖、宣威、可渡各地ヲ經テ貴州省ノ威寧畢節ヲ經テ四川省ノ敘永(永寧)瀘州、重慶ニ出ルモノニシテ總哩程五百哩トス

(第五) 雲南省東南部一帯地方(廣南)ヨリ斜隘ヲ經テ廣西省ノ百色、南寧ニ出ツル道路

色、南寧ニ出ツル道路

省城ヨリ廣南ニ至ルニハ宜良、路南、彌勒、邱北等ヲ經ルモノト(十四日行程トス)滇越鐵路蒙自ヨリ至ル路トアリ、後者ハ遙カニ捷路トス、廣南ヨリ百色迄ハ十一日行程、百色ヨリ廣東迄ハ西江ノ水路約千哩水路ノ狀況ニ依リ十日乃至二十日ヲ要ス、本路ハ百色迄ハ山嶽重疊シ交通極メテ不便トス、省城ヨリ曲靖ヲ經テ貴州路ヲ辿リ貴州省興義府ニ至リ是ヨリ南折シテ廣西省ノ泗城ヲ經テ百色ニ達ス

(第六) 省城ヨリ楊林、曲靖ヲ經テ貴州省ノ盤縣、普安、鎮寧、安順ヲ經テ貴陽ニ達シ更ニ東行シテ鎮遠ニ出ツ省城、鎮遠間約四百六十哩トス

(第) 省城ヨリ大理ヲ經大理ヨリ北行シテ鄧川、鶴慶、麗江ヲ經
 更ニ西北ニ折レ、滄江上流ヲ溯江シテ雲南北端ノ阿墩子ニ達
 ス阿墩子ハ大理ヨリ約千四十支里約十二日行程トス同地ヨリ
 省境迄一日半ヲ要シ西康省ニ出テ更ニ西藏ヘノ通路ニ出ツ
 ルニハ三日ヲ要ス本道路ハ雲南省ヨリ西藏ニ出ル唯一ノ道路
 ニシテソノ峻險幽境ニシテ難行タルヤ云フ迄モナキモ年々西
 藏人行商ノ來住少カラス

一、貿易 雲南省ハ出嶽重疊平野少ク河川ハ谿谷ヲ流レテ水利水運ノ
 便乏シク且鐵通路トシテハ雲南鐵道アルノミニシテ遠ク海洋ヲ
 離レテ海口ヲ有セサルカ故元ヨリ商工業ノ見ルヘキモノナク又
 主要産業タル農業、鑛業等モ交通ノ不便ニ災セラレテ天下ニ豐

富ナル天然資源モ未開發ノ儘放置セララルルノ状態ニシテ僅カニ
 箇舊ノ錫カ同省輸出品ノ大宗タリ、現在同省ノ貿易ノ大部分ハ
 雲南鐵道ヲ通シテ行ハレ主要輸入品ハ綿絲布、石油、雜貨類ニ
 シテ主要輸出品ハ錫ヲ第一トシ皮革、茶、藥材、豆類、アンチ
 モニー、亞鉛等ノ鑛物類ナリ、其ノ輸出入貿易ハ概シテ輸出超
 過ニシテ輸出額約二千萬、輸入額一千萬計外國貿易額三千萬元
 ノ程度ナリ尤モ右ハ雲南三稅關ノ統計ニ依ルモノテ北東方省境
 ヲ通スル移出入及密輸出入ヲ含マス、雲南ハ天然資源殊ニ鑛物
 ニ恵マレ居ルモ交通ノ不便ト人口ノ稀薄ナル爲メ省内ハ大部分
 未開發ノ状態ナルモ將來雲南緬甸鐵道、雲南廣西、廣東ヲ貫ス
 ル鐵道或ハ雲南重慶ヲ貫スル鐵道等カ敷設セララルルニ及ヘハ其

ノ經濟上ノ發展ハ注目スヘキモノアラン尙雲南ニ於ケル開市場
 ハ雲南府（昆明）、蒙自、騰越、思茅、河口（老開）ノ諸都市
 ナリ雲南府ハ一八八七年ノ清佛條約ニ基キ一八九〇八年開放セラ
 レタルモノニシテ本省政治上及商業上ノ中心地タリ英米日佛等
 ノ諸國ハ茲ニ領事館ヲ置ク、蒙自ハ佛支條約ニ基キ一八八九年
 開放セラレタルモノニシテ政治、商業上ノ重要地ニシテ佛國ハ
 茲ニ領事館ヲ置ク騰越ハ一八九四年ノ英支條約ニ基キ開放セラ
 レ英國ハ茲ニ領事館ヲ置ク緬甸雲南間交通ノ要衝タリ、思茅ハ
 一八九五年ノ佛支條約ニ依リ開市場トナレルモノニシテ佛領東
 京及ビルマヘノ交通路ニ當レルモ商業上ノ價值少シ、河口ハ雲
 南鐵道ニヨリ佛領ヨリ雲南ニ入ル國境ノ關門ヲ爲ス佛領老開ト

相對シ老開ト共ニ軍事上ノ重要地ナルモ商業上ハ見ルハキニ
 ナシ一八九五年ノ佛支條約ニ依リ開放セラレ
 一、外國關係 ビルマト雲南トノ關係ハ一八八六年英國カビルマヲ滅
 シテ之ヲ領土トナスヤ同年支那トビルマ國境ヲ劃定スヘキ條約
 ヲ締結シ一八九四年及ヒ一八九七年ノ條約ニ依リ兩國國境ヲ劃
 定シ境界線十哩以内ニ於テ兩國共ニ砲ヲ築カザルコト、支那
 ハラングーンシニ英國ハ騰越及思茅ニ領事ヲ駐在セシムルコト、
 兩國交通ハ騰越（登九）及盤西ノ二路及其他適當ナルモノニ依
 ルコト、支那ハ雲南ニ鐵道ヲ敷設スル時ニハビルマ鐵道ト連絡
 セシムヘキコト等ヲ定メタリ然ルニ南畔河以北西藏ニ至ル間ハ
 怒江トビルマノイラワヂー河ノ間ノ分水嶺ヲ境トナスヘキコト

ヲ定メタルモ實際之ヲ測定セザリシカハ兩國間ニ國境紛争發生シ支那側ハ分水嶺以西イラフザラ河ノ上流タルナムマイカ河ヲ國界ナリト主張シ英國ハ之ニ對シ分水嶺以東怒江沿岸ヲ國境ト主張シ兩國ノ紛争ハ未解決ノママ今日ニ及ヘリ

佛國ハ十七世紀以來安南經略ヲ初メ一八六八年ニハカムボチヤヲ保護國トシ一八八三年ニハ東京ヲ領土トシ更ニ安南ヲ保護國トセリ茲ニ於テ佛支戰爭起タリシガ一八八五年天津條約ニ於テ和議成リ支那ハ佛國ノ安南ニ於ケル保護關係ヲ承認スルニ至レリ次テ一八八七年、一八九八年、一九〇三年等ノ佛支諸條約ニ依リ廣東、廣西、雲南ト佛領トノ境界ヲ劃定シ、蒙自、河口、思第及龍洲ヲ開市場トシ、雲南、廣西、廣東諸省内ノ鑛山開發ニ關ス

ル優先權ヲ佛國ニ與ヘ、右諸省ノ第三國ヘノ不割讓ヲ約シ、雲南ト佛領トヲ連絡スヘキ鐵道敷設權即チ昆明ヨリ河口ヲ經テ佛領印度支那東京ノ海防ト連絡スヘキ鐵道タル現在ノ滇越鐵路ノ敷設及龍河、南寧、百色ヲ經テ南雲府ニ通スル鐵道ト佛領鐵道トヲ連絡スヘキ鐵道ノ敷設權等ヲ佛國ニ與ヘタリ

一、雲南ノ特殊性 雲南省ハ甘肅、四川ニ次キ支那十八省中第三位ニ位スル廣大ナル面積ヲ有シ外地ヲ除ク我國ニモ殆匹敵スヘキ大省ナルモ人口ハ僅カニ一千三百萬ニ過キス且全省ノ大部分ハ高峻ナル山嶽ヲ以テ蔽ハレ農耕地帶極メテ乏シク從ツテ農業國トシテノ天恵ニ恵マレス亦河川ノ舟行ニ適スヘキモノ稀ニシテ山嶽溪谷ニ繞ラサレテ省内外ノ交通極メテ不便ナル等ノ事情ニ依リ省

1835

内豊富ナル礦物資源ニ充テ居ルニ拘ラス其ノ大部分ハ未開發ノ
 儘放置セララルル状態ニシテ其主要財源タル農産物及礦物ノ輸出
 ノ如キモ僅カニ二十萬元程度ニ過キス省民ノ過半ヲ占ムル農民
 ハ利益多キ阿片ノ栽培ニ依リ生計ヲ建テツツアリシモ阿片禁令
 以來ハソノ生活ハ著シク窮乏ヲ告クルニ至レリハ尤モ同省ハ人
 口稀薄ナル爲メ現在ニ於テハ自給自足ノ生活ヲ爲シ得ル事情ニ
 在リ輸出入貿易ノ如キモ年々輸出超過トナリ居レリ然レ共將來
 交通發達シ資本労働ヲ投下セハ其ノ無盡藏ナル礦物及森林資源
 ハ開發セラレテ頗ル富ヲ増加シテ強大有力ナル地方トナルヘキ
 コトハ疑ヲ容レス且ビルマ、佛領印度支那等トノ交通ノ要衝ニ
 當リ居レハ西南諸地方開發ノ中心トシテ重要ナル役割ヲ演スヘ

0310

0 330

1835

ク唯ニ經濟上ノミナラス其ノ軍事的價值ヲ強化スルニ至ルヘキ
 ハ注目ニ價スヘキモノト言ハサルヘカラス左ニ本省ノ特色トモ
 云フヘキ諸點ヲ舉クヘシ

(イ) 農業地トシテ天恵ニ乏シキコト、本省ノ農耕地トシテハ全面
 積ノ六パーセントニ過キス省内山嶽高原ナルカ故ニ可耕地極
 メテ尠少ニシテ且澆漣ノ便少シ省民ノ主食タル米ノ如キモ僅カ
 ニ省民ノ需要ヲ充スニ足ルノミニシテ人口増加セハ省外ノ供
 給ニ待タサルヘカラス

(ロ) 交渉不便ナルコト、邊陲ノ地ニシテ海陸交通ノ要路ニ隔絶シ
 交通機關トシテハ僅カニ滇越鐵道ニ依リ佛領海防ニ連絡シ海
 防ヲ通シテ香港、廣東等ト接続シ居ル状況ナリ

0311

0 331

ノ邊境方面ニハ盛ニ栽培セラレ國內ノ嗜好ニ供スルト共ニ外國ニ密輸セラルルモノ相當アリト云フ

(四) 人種ノ雜多ナルコト、由來雲南省ハ長ク夷族ノ居住セル處ニシテ漢民族ノ渡來セルハ比較的近世ニ屬シ唐初ヨリ元代ニ至ル四世紀ノ間ハ全省殆ト夷族ノ支配セル處ニシテ之等民族ハ支那ト獨立セル國家ヲ形成セルノミナラス其ノ威力ハ遠クヒルマ印度方面ニ及ヘリト云フ、元代ニ於テ元ノ出征ニ依リ支那ノ版圖ニ歸屬センメラレテヨリ漢人ノ移住漸次多キヲ加ヘ之ト共ニ夷族ハ次第ニ邊境ニ驅逐セラルルニ至リ明及清朝ニ至ルヤ漢民族優勢トナリ今ヤ全省人口ノ大半ハ漢民族ニ依リ占メラレ且夷族ノ一部ハ漢民族化スルニ至レリ而モ清朝代十

(一) 鑛産ニ富メルコト、本省ハ鑛産ニ富メルコトハ支那諸省中屈指ノモノニシテ石油ヲ除キテハ殆ト總テノ鑛物ヲ埋藏スト稱セラレ就中錫ハ支那第一ノ産地ナルノミナラス世界有數ノ産地ニシテ右ノ外アンチモニー、亜鉛、銅等ノ豐富ナル資源ヲ有シ且多量ノ鹽ヲ産地シ充分國內ノ需要ヲ充シ得ルハ本省ノ特色トスル處ナリ

(二) 阿片ノ栽培盛ナルコト、雲南ハ平地少キヲ以テ面積少ナル處ニ價格高キモノヲ耕作シテ收入ヲ圖ルノ必要上、阿片ノ栽培盛ニ行ハレ錫ト並ビ輸出品ノ大宗ニシテ年産額三千萬兩ニ及ヒ主要財源ナリシモ一九〇九年ノ禁煙令實施以來輸出ヲ斷テ一時省民ノ困窮甚シカリシト云フ然ルニ今尙東北部及南西部

九世紀後年ニ於テハ之等夷族ノ叛亂ノ爲メ清朝ハ大ニ備マサレ其ノ鎮壓ニハ十數年ヲ要セリ之等夷族中ニハ羅々族、白夷族、明家子族、苗族、獯族、西蕃族等支那人ニ依リ種々ノ名稱ヲ附セラレタル多數ノ種族ニ分類セラレ居ルモ其ノ人種ハ西藏、緬甸族、暹羅族、土耳其族等ト同一系統ニ屬シ之等諸民族ノ混合セルモノナリト云フ。此等民族ハ合計約四百萬人ト稱セラレ多クハ山間僻地ニ住居シ或ハ部落ヲ爲シ或ハ散居シテ各特異ノ生活ヲ爲シ居レリ、清朝時代ニハ之等民族ヲ治ムルニ一種ノ自治制タル尊長制ニ依リ土司ヲシテ世襲的ニ各部落ヲ統治セシメテ地方官ハ之ニ干涉セス若シ其ノ土司ノ子孫絶ユルカ又ハ其ノ他ノ事變發生ヲ機トシテ其ノ部落地方ヲ

收メテ之ヲ州縣ニ改編シテ地方別ニ編入セシムルノ方法ヲ採リ現在ニ於テモ之等地方ニ一定ノ自治ヲ許與シ居レリ

(2) 英佛ノ勢力範圍地帯タルコト、雲南ハ南ハ佛領印度支那タル安南ニ接シ西南ハ英領ビルマニ接シ夙ニ英佛勢力ノ侵透セル地方タリ殊ニ滇越鐵道カ佛國系ノ鐵道ニシテ本省唯一ノ交通機關タル關係モアリ且ツ佛國ハ安南ヲ據點トシテ支那ニ勢力ヲ及ホサントシテ本省ト廣東、廣西方面ニ於テ種々ノ特權ヲ獲得シ竝ニ布教上ノ勢力ヲ扶殖シテ以來本省ニ於ケル外國勢力中最モ優位ノ地位ニアリ、英國又一八八六年ビルマ領有以來本省ニ商業上、軍事上ノ特權ヲ獲得セント努力シ來リ殊ニビルマ及西藏ト境ヲ接シ印度防衛上ノ前衛地タルニ鑑ミ本省

ニ對シテハ重大關心ヲ有ス一方雲南ニ於テモソノ商業貿易ハ
 英國ノビルマ、香港ニ貢フ處多大ナルニ鑑ミ英國ニ依ル處頗
 ル大ナリ、英國ハビルマ鐵道ヲ本省ヲ經テ重慶ヲ通シ揚子江
 沿岸ニ延長シ此等廣大ナル未開發ノ西南地方ヲ其ノ商業的勢
 力範圍ニ收メントシテ既ニ重慶、雲南、ビルマ間ノ鐵道敷設
 權ヲ得タルモ本省ノ地形峻嶮ニシテソノ難工事タル爲未タニ
 其ノ敷設實現ヲ見サルノ状態ナリ他方佛國ハ既ニ滇越鐵路ヲ
 所有セル外雲南、百色間ノ鐵道敷設權ヲ得且安南ヨリ龍州、
 南寧、桂林等ヲ經テ貴陽ニ通シ更ニ重慶迄延長セントスル鐵
 道及貴陽ヨリ分レテ雲南ニ出テントスル鐵道及百色ヨリ南寧
 ニ出テ右鐵道ト接續シ更ニ南寧ヨリ東ニ出テ、欽州北海ニ延

長セントスル鐵道等ノ敷設權ヲ獲得セリト傳ヘラレ既ニ龍州
 南寧間ハ佛國ノ資本ヲ以テ鐵道敷設工事ニ着手セリト稱セラ
 レ將來此等ノ鐵道カ英佛ノ資本ヲ以テ敷設セラレ未開發ノ要
 南地方カ開發セラルルニ至ラハ其ノ軍事上ノ價值ハ勿論經濟
 上モ亦頗ル重要性ヲ加フヘキハ言フヲ俟タス之雲南カ現在蔣
 國民政府ノ咽喉ヲ扼スルモノト云フヘキ所以ナリ

諸君の御覧の如く、此の書は、
 明治二十八年、即ち西暦一八九五年、
 東京にて出版せられたるものである。
 著者は、
 新澤 寛 氏 である。
 此の書は、
 東京にて出版せられたるものである。
 著者は、
 新澤 寛 氏 である。
 此の書は、
 東京にて出版せられたるものである。
 著者は、
 新澤 寛 氏 である。

1835